

計画事業番号	261	事務事業名	フレンドリーセンター運営事業	担当部署	教育部社会教育課	電話	4842
--------	-----	-------	----------------	------	----------	----	------

## 【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	根拠法令等	北広島市フレンドリーセンター条例				
事務事業開始年度	平成12年度	個別計画等	北広島市教育基本計画 2011-2020				
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

## 【事業概要】

1 総合計画体系	(第 2 章) 人と文化を育むまち	
	(第 4 節) 社会教育の充実	
	(施策 2 ) 学習機会の充実	
2 対象	障がい者とその保護者及び市民	
3 目的と内容	障がい者が生涯学習を通じて、学び、交流する場を提供する。	
4 実施内容 (手段)	28年度まで	フレンドリーセンター事業を実施する。
	29年度	昨年度と同様であるが、フレンドリーセンター事業を実施する。

## 【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画	実績	計画	計画	計画
フレンドリーセンター事業の開催 施設管理	フレンドリーセンター事業の開催 (1)太鼓教室 (2)料理教室 (3)サッカー教室 (4)スキー教室 (5)体操教室 施設管理	フレンドリーセンター事業の開催 施設管理	フレンドリーセンター事業の開催 施設管理	フレンドリーセンター事業の開催 施設管理

## 【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	
1次評価	現状継続	28年度事業実施については事業委託により実施したが、29年度以降は市直営により実施	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

「拡大」  
「現状継続」  
「要検討」  
「見直し」  
「統合」  
「休止・廃止」  
「終了」

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			678		762		992		992	
事業額	直接事業費	国支出金	90		67		53		53	
		道支出金	53		37		25		25	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	27		22		40		40	
		一般財源	508		636		874		874	
	① 合計	678		762		992		992		
額	人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.05	0.00	0.05	0.00	0.05	0.00	0.05	0.00
		③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500
		④ =②×③	420	0	420	0	420	0	420	0
総事業費①+④			1,098		1,182		1,412		1,412	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①事業参加者延人数	目標値	100	100	100	100
		実績値	95			
	②事業参加者の内障がい者の延人数	目標値	80	80	80	80
		実績値	60			
③	目標値					
	実績値					
成果指標	① 【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				
	② 【指標の定義(算式等)】	目標値				
実績値						
③ 【指標の定義(算式等)】	目標値					
	実績値					

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
<b>妥当性</b> ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	障がい児・者に対するの学び場等の提供は、社会の要請と関係団体の要望に合致している。
<b>達成度</b> ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	2	事業参加率などおおむね成果は上がっている。
<b>成果向上</b> ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	関係団体等と連携をしながら事業の内容・効果を検証し改善することで成果向上の余地はある。
<b>経済性</b> ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	コストの削減は難しい。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	---

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--